関西自然保護機構会報 *20*（2）：*67－76, 1998*

原　著

愛知県渥美半島の農免農道建設地区における爬虫両棲類について

愛知学泉大学コミュニティ政策学部　矢　部　　隆
豊橋南高等学校　大　羽　康　利

REPTILES AND AMPHIBIANS AT THE CONSTRUCTION SITE OF THE AGRICULTURAL ROAD ON THE ATSUMI PENINSHULA, AICHI PREFECTURE, JAPAN

Takashi YABE　*School of Community Politics, Aichi Gakusen University*
Yasutoshi OOBA　*Toyohashi Minami Senior High School*

はじめに

渥美半島にはシデコブシ *Magnolia tomentosa*（あるいは *Magnolia stellata*），ナガボナツハゼ *Vaccinum sieboldii* など周伊勢湾要素植物群と称される東海地方固有の植物が自生しており，またトウキョウサンショウウオ *Hynobius tokyoensis* などの希少な動物も分布していて（中西ら，1994），生物地理学的に非常に重要な地域であると言える。爬虫両棲類については，渥美半島での分布が調べられた例（新美，1974；愛知県，1996）がある他，この半島のアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* が独立した地方種族とされるほど形態面および行動面に地理的変異を持っていること（Sawada, 1963a, 1963b）が明らかにされている。しかし，それぞれの種の生息状況に関する知見は乏しいと言わざるを得ない。

渥美町土田（とだ）地区は渥美半島の中央部に位置し，山林部分の多くが三河湾国定公園特別地域に指定されており，この半島の中でも自然のよく残っている場所である（資料1）。しかし現在この地区で農免農道の建設工事が進んでいる。われわれはこの道路の建設工事および開通の爬虫両棲類に対する影響を念頭に置きつつ，この地区の爬虫両棲類の生息状況を調査した。この報告ではこれまでに確認できた種を一覧し，いくつかの種において発見された新しい知見を紹介する。

なおこの研究にあたって，豊川市の浅香智也氏，愛知県立成章高等学校教諭の葉山茂生氏には現地調査を手伝っていただいた。東京都立大学理学部の草野保博士にはカエル類を分析していただき，御指導をいただいた。京都大学大学院人間環境学研究科の松井正文教授と（財）自然環境研究センター上席研究員の千石正一氏にはカエルに関する御指導と御示唆をいただいた。三河生物同好会副会長の浅岡孝知氏には渥美半島の動物相について貴重な情報をいただいた。東京都立大学理学部の林文男博士にはマダニに関して御教示いただいた。栃木県立県立博物館研究員の林光武博士には両棲類について御指導いただいた。また，この研究には，関西自然保護機構の1996年度研究助成金を使用した。記して感謝の意を表する。

渥美町東部の農免農道の工事の経過

渥美町東部に建設中の農免農道は，太平洋岸を通る国道42号線と三河湾岸の国道259号線とを結ぶ道路である（図1）。この道路には，三河湾国

関西自然保護機構業績　第210号，関西自然保護機構研究助成　No.48

定公園特別地域内を通過するなど多くの問題があったので，計画が表面化した1991年以来，渥美自然の会を始めとする諸団体が反対運動を展開してきた（渥美自然の会, 1992a, 1992b；資料2)。しかしそれにもかかわらず，1995年に建設が決定され，1996年から段階的に建設工事が進行している。工事は太平洋側から進んでおり，1997年度までに図1に示した部分ができあがっている。

建設工事の過程においては目に余る自然破壊が行なわれている。たとえば，景観上の一つの象徴であった「猿岩」と呼ばれる巨大な岩を破壊したり，愛知県内で2本しか報告されていないアワブキ科のヤマビワ *Meliosma rigida* をダイナマイトで崩した岩で押しつぶしたり（渥美自然の会, 1998)，手を着けないという約束であった池のわきの林道が，工事車両を通すために結局切り開かれたりといった具合である。

1998年度にはトンネル部分の設計調査のため工事を休止していて，1999年度からはトンネルの建設が始まる予定である。トンネルは計画当初長さ400 mとされていたが，1,000 mに延長された（資料2)。

調査方法

調査地は1997年度までに工事が終了している部分を中心にした約73 haの区域である。この区域は渥美半島の中でも自然のよく残っている場所であり，国道42号線沿いには集落があり，この国道の北側に農地が広がっている。農地はほとんどが温室で，畑地が散在しており，水田が1枚だけある。調査地内には鮎川が流れており，河口から1,600 mのところに1964年に砂防のための堰がつくられ，ダム池となっている。農免農道の東側は渥美半島の最高峰である大山（328 m）の山麓となっている。鮎川の東の林道は，多い茂る草木や路面の悪さのために1997年までは乗用車での通行が困難であった。しかし1998年の初めに工事車両を通行させるためにダム池までの道を広げ，路面を整地したため，この池に簡単に行くこ

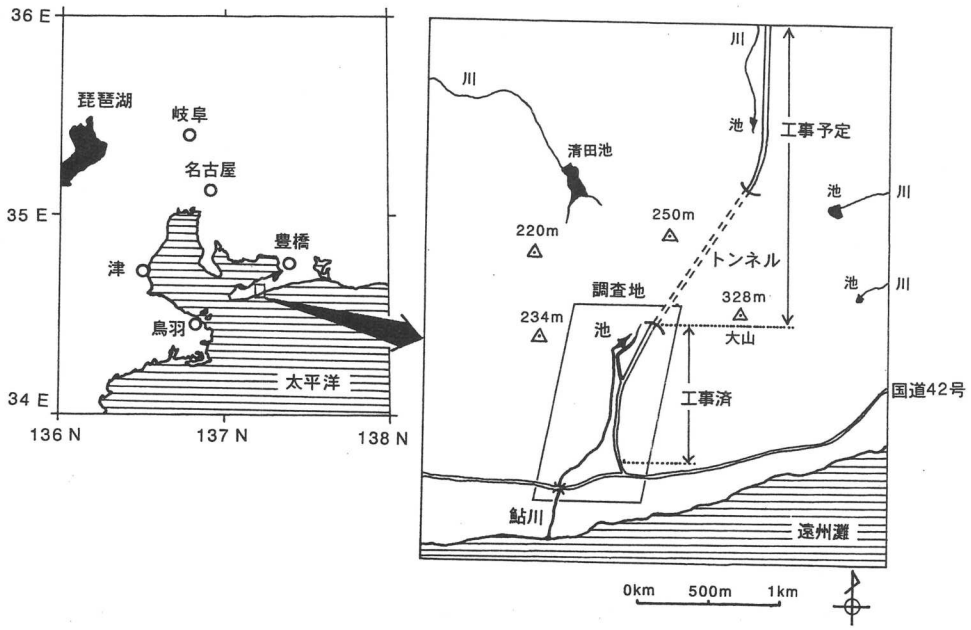


図1　調査地の概要．中点のある三角は山頂を示す．

表1　渥美町土田地区で確認した爬虫両棲類.

メッシュ番号については，環境庁（1997）に従っており，01，11がメッシュ番号5137-71-01，5137-71-11をそれぞれ表している．

動　物　名	確認場所（メッシュ番号）	確認日	発見状況，その他
REPTILIA爬虫綱			
TESTUDINATAカメ目			
BATAGURIDAEバタグールガメ科			
1. *Mauremys japonica*（Temminck et Schlegel, 1835）	11	1996.3.24	成体オス1，鮎川水底を徘徊
ニホンイシガメ	11	1997.5.1	成体メス1，池水底に滞在
	11	1997.7.9	成体メス1，林道に滞在
			ほか
			写真あり
EMYDIDAEヌマガメ科			
2. *Trachemys scripta elegans*（Wied, 1839）	11	1998.7.5	未成熟オス1，池
ミシシッピーアカミミガメ		-1998.7.7	標本あり
SQUAMATA有鱗目			
SAURIAトカゲ亜目			
SCINCIDAEトカゲ科			
3. *Eumeces latiscutatus*（Hallowell, 1860）	01	1996.7.21	1個体
ニホントカゲ	01	1996.7.28	1個体
LACERTIDAEカナヘビ科			
4. *Takydromus tachydromoides*（Schlegel, 1838）	01	1996.6.8	成体1
ニホンカナヘビ	11	1996.6.9	成体1，林道，タネガタマダニ *Ixodes nipponensis* が寄生
	11	1996.7.28	成体1，池の岸
	11	1997.8.17	未成体2，農免農道側溝に落下
			ほか
			写真あり
SERPENTESヘビ亜目			
COLUBRIDAEナミヘビ科			
COLUBRINAEナミヘビ亜科			
5. *Elaphe climacophora*（BOIE, 1826）	01	1998.7.31	1個体，国道42号線上で死体
アオダイショウ			標本あり
6. *Elaphe quadrivirgata*（BOIE, 1826）	11	1997.6.29	成体オス1，林道で日光浴
シマヘビ			写真あり
Matricinaeユウダ亜科			
7. *Rhabdophis tigrinus tigrinus*（BOIE, 1826）	01	1996.6.9	農免農道上で死体
ヤマカガシ	11	1996.7.21	未成体2（捕獲した1頭はオス）
	01	1996.7.23	未成体1
	11	1997.6.29	1個体
			ほか
			標本あり
Viperidaeクサリヘビ科			
8. *Agkistrodon blomhoffii blomhoffii*（BOIE, 1826）	11	1997.9.5	成体1，鮎川の岸
ニホンマムシ			標本あり
AMPHIBIA両棲綱			
SALIENTIA無尾目			
BUFONIDAEヒキガエル科			
1. *Bufo japonicus formosus* Boulenger, 1883	11	1996.6.8	声のみ
アズマヒキガエル	01	1997.6.29	未成体1，農免農道側溝に落下
	11	1997.10.8	成体1，林道
	01	1998.7.30	1個体，農免農道上で死体
			標本あり
HYLIDAEアマガエル科			
2. *Hyla japonica* Günther, 1858	11	1996.6.8	成体オス3，成体メス2，水田
ニホンアマガエル			
RANIDAEアカガエル科			
3. *Rana japonica japonica* Günther, 1858	11	1996.3.24	成体オス1，卵塊3，鮎川
ニホンアカガエル	01	1996.6.8	未成体1，畑の側溝
	11	1996.6.8	成体2，鮎川
	11	1997.8.12	成体1，池
			写真あり
4. *Rana nigromaculata* Hallowell, 1861	11	1996.6.8	成体オス1，水田
トノサマガエル	11	1996.7.23	成体メス1，池
	11	1996.8.28	成体メス1，池
			写真あり
5. *Rana rugosa* Temminck et Schlegel, 1838	11	1996.7.21	5個体，池
ツチガエル	01	1996.7.21	オス8，メス3，性不明2，道路側溝
	01	1996.8.28	2個体，道路側溝
	11	1997.6.29	オス1，メス1，性不明4，池
			ほか
			標本・写真あり
RHACOPHORIDAEアオガエル科			
6. *Rhacophorus schlegelii*（Günther, 1858）	01	1996.6.8	1個体，鮎川付近
シュレーゲルアオガエル	11	1996.6.8	2個体，水田
	01	1996.7.21	声
			標本あり

とができるようになり，実際に釣りなどの目的で訪れる人が格段に増えた。

爬虫両棲類のうちカメ類に関しては，あらかじめ定めた場所に専用のわなを仕掛けて捕獲した（矢部・林, 1998）。1996年3月から1998年10月までの間に計17回わなをかけた。各回においてはだいたい1週間くらいの間わなを掛けたままにし，1～3日ごとにわなの中を確認した。

爬虫両棲類全般に関しては，カメのわな掛け調査の日を利用して，季節，天候および昼夜になるべくバリエーションができるようにして，調査地内の可能なかぎりの場所を徒歩で探索して観察や採集を行なった。

ヤモリに関しては，1997年8月11日に渥美町土田の住民12名の方を訪問し，自宅あるいはその近辺でヤモリを目撃したことがあるかどうかの聞き込み調査をした。

結　果

確認できた爬虫両棲類

調査期間中に渥美町土田地区では爬虫類8種（カメ目2種，トカゲ亜目2種，ヘビ亜目4種），両棲類6種（無尾目6種），計14種を確認した（表1）。

ニホンイシガメとツチガエルについては，部分的には発表済みであり（矢部・林, 1998），さらに詳細な報告を準備中である。したがって表1では記述を簡略なものにとどめた。

特記すべき事柄

1）カメ類

調査地のニホンイシガメにはカメキララマダニ *Amblyomma geoemydae* が寄生していた（矢部・林, 1998）（図2）。

調査期間中のカメ類ののべ捕獲回数は118回で，個体識別したカメの数は35頭であり，それらのうちの117回（99.2%），34頭（97.1%）がニホンイシガメであった。そして1例のみ1998年7月にミシシッピーアカミミガメを捕獲した。このカメは甲長143.0 mm，体重430gのオスであった。

調査地のニホンイシガメの集団には，1）性比がオスに偏っている，2）オスには高齢な個体が多い，3）オスには体の大きい個体が多い，という特徴があった（矢部，準備中）。高齢な個体に対して，最も若い個体は1994年生まれであった。

調査地内で産卵を直接観察することはできなかったが，池の西岸の林道の路肩において1996年7月28日に，産卵巣を掘りかけて途中で放棄した穴を7箇所確認した。1997年7月9日にも同様の穴を同じ林道で3箇所見つけており，さらにその日の午前5時20分に，体内の蔵卵が触診で確認できたメスのニホンイシガメがそれらの穴の周辺を徘徊しているのも発見した。

2）トカゲ類

ニホンカナヘビは確認した6個体のうち4個体がメッシュ11で見つけられたが，ニホントカゲは確認した2個体とも01のみで見つかっており，11では目撃できなかった。

ヤモリに関する聞き込み調査では，対象の12名全員から，自宅あるいは自宅近辺ではヤモリを見たことはない，との回答を得た。

3）ヘビ類

1997年6月29日に捕獲した頭胴長124cm，尾長29cmのオスのシマヘビの糞からカメの卵を確認した。

4）ツチガエル

調査期間中に捕獲し測定することができた32個体のうち17個体（53.1%）という高い割合で，幅広い淡黄色の背中線を持つ個体が見つかった（図3）（矢部，準備中）。

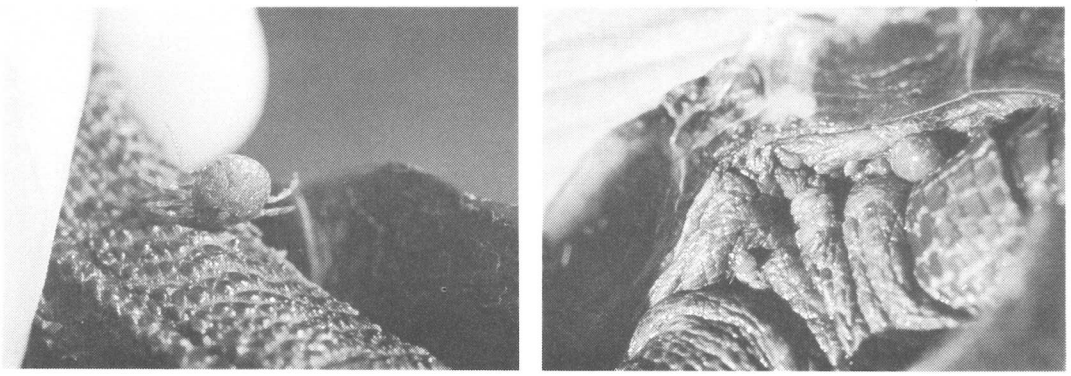


図2　渥美町土田においてニホンイシガメに寄生したカメキララマダニ．右図では両肩に，左図では左後脚の膝窩辺りに寄生している．

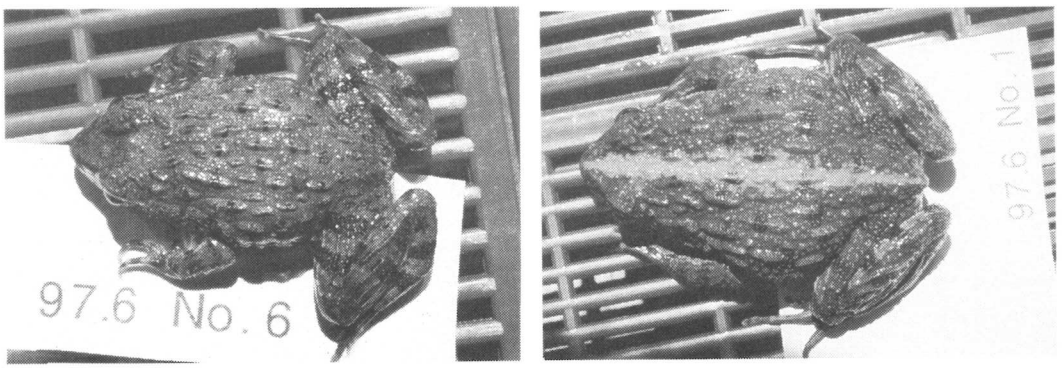


図3　渥美町土田産ツチガエル．左図が普通の模様のタイプで，右図が背中線のあるタイプ．

考　察

本研究では渥美町土田地区において爬虫類8種，両棲類6種，計14種を確認した（表2）。農免農道の工事のための環境アセスメントでは爬虫類5種，両棲類5種，計10種が確認されており，本研究では見つからなかったヒバカリ *Amphiesma vibakari vibakari* が確認されている（渥美地区自然環境調査, 1993）。また，愛知県による調査では，渥美町には爬虫類3種，両棲類4種が現在ほぼ確実に分布しているとされており，本研究では見つからなかったヤマアカガエル *Rana ornativentris* が確認されている（愛知県, 1996）。これらの結果をふまえれば，渥美町土田地区には現在，本研究で確認した種にヒバカリとヤマアカガエルを加えた爬虫類9種，両棲類7種が生息していると考えられる。調査範囲が非常に狭いにもかかわらず，比較的多数の種が生息していると言えよう。

農免農道の工事や一部開通の影響はすでに，農道周辺の爬虫両棲類の減少，路上での轢死（ヤマカガシ，アズマヒキガエル），側溝への落下（ニホンカナヘビ，アズマヒキガエル）という形で現れている。ただし轢死や落下の発見頻度は当初予想していたほどに多くはなかった。この原因の一つは，調査地に豊富に生息する鳥類（大羽，準備中）

表2　渥美町土田地区の爬虫両棲類.

資料1は渥美地区自然環境調査（1993），資料2は愛知県（1996）．資料2の列の○は現地調査による確認，あるいは報告諸島の中での過去5年以内の現認の記載，□は既存資料による生息の確認，×は絶滅したと考えられることを表す．

種	本研究	資料1	資料2		
			渥美町	赤羽根町	田原町
ニホンイシガメ	○	○	○	○	○
スッポン			□		
アカミミガメ	○				
ニホンヤモリ			□	□	
ニホントカゲ	○		□	□	○
ニホンカナヘビ	○	○	□	□	○
アオダイショウ	○		□	□	○
シマヘビ	○	○	□	□	○
ジムグリ			□	□	○
シロマダラ			□	□	○
ヒバカリ		○	○	○	○
ヤマカガシ	○	○	□	□	○
ニホンマムシ	○		○	○	○
トウキョウサンショウウオ			×	×	○
アカハライモリ			×		○
アズマヒキガエル	○	○	○		○
ニホンアマガエル	○	○	□	□	
ニホンアカガエル	○	○	○	□	○
ヤマアカガエル			○		
トノサマガエル	○	○	○	□	○
ダルマガエル			□		
ツチガエル	○	○	□	□	
ウシガエル			□	□	○
ヌマガエル			□	□	○
シュレーゲルアオガエル	○				○

が死体や落下個体を採餌することであると思われる。側溝への落下や交通事故死に対する対策は現在まで全くなされていない。

1998年7月に確認されたミシシッピーアカミミガメも農免農道の影響を受けた種と考えられる。農道建設の工事車両を通すために，この年の初めに池の東岸を通る林道の道幅が拡張され，路面が整備された。おそらく誰かがその道を利用して乗用車で池の岸まで入り込み，このカメを放したのであろう。池の岸まで来るのに乗用車を使うのが困難であった1997年以前に，ミシシッピーアカミミガメが池にいたとは考えがたい。なぜなら，1997年までの調査ではのべ111回捕獲したカメは全てニホンイシガメで，再捕獲率も高かったことから，池にはニホンイシガメしか生息していなかったのがほぼ確実であるからである。調査地に明らかに人為的に導入された動物はミシシッピーアカミミガメの他には，コイ *Cyprinus carpio* を確認しているだけである。しかし今後，調査地近辺が開けたことにより，渥美半島の他のいくつかの池ではすでに見つかっているオオクチバス *Micropterus salmoides salmoides*，ブルーギル *Lepomis macrochirus*，ウシガエル *Rana* (*Rana*) *catesbeiana*，アメリカザリガニ *Procambarus clarki* などの外来動物が持ち込まれることが危惧される。なお，池まで簡単に人が来ることができるようになって以来，からんだ釣り糸や弁当の容器，飲み物の缶などのごみが目立つようになった。また，カメを捕獲するためのわなが触られるようになったため，池の西側にはわなを仕掛けることができなくなった。

調査地においてニホンイシガメに寄生していたカメキララダニは琉球列島や東南アジアの陸生のカメに特異的に寄生する種であり，南西諸島以北ではこの調査地で初めて記録された。調査地が自然環境のよく残された場所であること，および渥美半島の他の水系においてもこのダニの寄生しているカメが多数見つかっていること（矢部・林，未発表）から，このダニの分布が人為的であるとは考えにくい。このダニがどのような経路で渥美半島にやって来たのかについては，黒潮の運ぶ漂流物に付いてきた可能性などを念頭に置きつつ研究中である。カメキララマダニと同様に南方に分

布し，渥美半島近辺でで飛び地的に見つかっている昆虫としては，トカラ列島に分布し，本州では豊橋市において初めて記録されたルリキオビジョウカイモドキ *Laius takaraensis*（長谷川・蟹江，1992），同じくトカラ列島に分布し，豊橋市の豊川で確認されたツツイキバナガミズギワゴミムシ *Armatocillenus tsutsuii*（長谷川，準備中）がある。渥美半島のカメキララマダニに関しては，渡来経路の他，空気呼吸をする動物であるにもかかわらずなぜ淡水生のニホンイシガメに寄生して生活していけるのか，また熱帯や亜熱帯が主たる分布地であるにもかかわらず，時には雪が降るほどの渥美半島の冬の寒さの下でもなぜ絶滅せずに生活することが可能なのかということも，今後解決すべき重要研究課題である。

シマヘビの糞から出たカメの卵は，調査地から半径10 km以内の水系からニホンイシガメしか確認されていない（矢部，未発表）ことから，ニホンイシガメの卵と考えてよいと思う。卵の大きさや形，数もこの推定を覆さない。

カメの産卵巣を掘りかけの状態でしか発見できなかったことから，池周辺には産卵しやすい場所が少ないのかも知れない。実際見た目にも，産卵に適した場所というのは1998年初めに工事された林道の路肩に若干あるのみであった。しかしながら，シマヘビの糞からニホンイシガメのものと思われる卵が検出されたり，1994生まれの若い個体が捕獲できたりしたことから，ニホンイシガメは少数ながらこの地域で繁殖していると考えられる。また，池よりもさらに山奥の林道でもニホンイシガメが見つかっていることから，他の水系との間の移入，移出による個体数の増減もあるのであろう。

ツチガエルにおいては，淡黄色の背中線を持つ個体がまれに見つかる（中村・上野, 1963；前田・松井, 1989）。しかしこの調査地におけるような高い割合でそのような個体が出現した例は知られておらず，調査地の個体群は非常に珍しい，といえる（千石，松井，草野，私信）。背中に線の入るツチガエルの地理的分化の様子や，進化的意味についてはまだ調べられていない。

トカゲ類では，ニホントカゲが調査地の中でも海岸に近い場所で見つかったのに対し，ニホンカナヘビは山麓に近い場所でおもに見つかった。前種は日当たりのよい場所を好み，植生の乏しいガレ場などでも見られるのに対して，後種はおもに草むらで生活する傾向がある。したがって，調査地において両種の生活場所が分かれているのも，そのような環境への指向性の違いを反映しているのであろう。

ニホンヤモリは，夏の夜間調査でも見つからなかったし，住民の方へのアンケートでも見たことがないという回答のみであったので，渥美町土田地区とその近隣には分布していないと考えられる。この種は渥美半島の基部の赤羽根町東部や豊橋市には生息している。

渥美半島の基部で確認されているトウキョウサンショウウオやアカハライモリ，ダルマガエルもまた，渥美町土田地区の調査地では見つからなかった。これらの種は渥美半島の他の両棲類と比べて水から離れることが少ない。したがって，近年稲作をしなくなったことによって水系が貧弱になりつつある渥美半島の先端部から中央部にかけての地域では，個体数が著しく減少し，場合によっては滅びているのであろう。

結論として，調査地のような狭い地域の爬虫両棲類においてさえ，生物学的，特に動物地理学的に興味深いことが観察されており，しかもほぼすべてのことが未解明である。したがって，調査地を含む渥美半島の爬虫類や両棲類は保護され，専門的な研究が行なわれる価値が大きいと言える。そのことを考慮に入れ，すでに着工され，一部開

通されている農免農道の建設は，爬虫両棲類に対して細心の注意を払って行なわれるべきである。

おわりに

渥美半島には希少な種や固有な生物が多いことはよく知られている。しかし，この報告で述べたように，生物に関する新しい知見がいまだに現れており，今後爬虫両棲類を含めて調査研究をより深めていく必要をわれわれは感じている。そして自然に関する知見の集積は，乱開発を阻止する場合の資料としても重要となるであろう。

渥美半島は多くの部分が三河湾国定公園 ── それも特別地域 ── に指定されており，国定公園指定地以外はすべて渥美半島県立自然公園となっている。しかしこうして一見守られているかに見える渥美半島にも，中部国際空港建設のための土砂取りや産業廃棄物処理場建設などの自然を破壊する開発の波が押し寄せている。

さらには，新全国総合開発計画（98年3月発表，いわゆる五全総）に基づく巨大プロジェクト「伊勢湾口道路」も構想されている。（建設省幹線道路調査事務所, 1996）この道路は，静岡県浜名湖北部の東名高速道路三ケ日ICから豊橋・渥美半島を縦断したあと，半島先端の伊良湖から志摩半島の鳥羽までの海上を巨大つり橋で通り，伊勢自動車道につながる自動車専用道路であり，渥美半島や伊勢湾の自然に大きな影響を与えることは必至である。

そのような状況の中で我々は，ここで報告した内容も含めて，渥美半島の自然の豊かで特異的な面が社会的に広く知られるようになることと，そのことによりこの半島における乱開発が抑止されることを強く望んでいるところである。

引用文献

愛知県. 1996. 愛知県の両生類・は虫類. 117p., 愛知県農地林務部自然保護課, 愛知.

渥美自然の会. 1992a. 農道整備事業は中止して下さい. 渥美の自然と保護 No.12 : 3.

————. 1998. 渥美町の農免農道猿岩とヤマビワを破壊. 渥美の自然と保護 No.24 : 1.

————. 1992b. 渥美半島の山間部の自然環境保全を求める署名117団体4045人. 渥美の自然と保護 No.14 : 1.

渥美地区自然環境調査（揮発油税財源身替農道整備事業）. 1993. 20p.

長谷川道明・蟹江　昇. 1992. 豊橋市表浜海岸の海浜性甲虫類. 豊橋市自然史博物館研報, No.2: 13-24.

環境庁. 1997. 都道府県別メッシュマップ23愛知県. 77＋8p. 環境庁自然保護局, 東京.

建設省中部地方建設局東海幹線道路調査事務所. 1996. 未来に向けて期待がふくらむ伊勢湾口道路. パンフレット, 愛知県豊橋市.

中村健児・上野俊一. 1963. 原色両生爬虫類図鑑. 214p. 保育社, 大阪.

中西　正・藤城信幸・稲田浩三・小柳津弘・渡辺幸久・大羽康利. 1994. レッドデータ渥美. パンフレット. 渥美自然の会, 愛知県渥美郡赤羽根町.

新美　利. 1974. 渥美の爬虫類・両生類. 伊良湖 4: 4-6. 伊良湖自然科学博物館, 愛知.

前田憲男・松井正文. 1989. 日本カエル図鑑. 206p. 文一総合出版, 東京.

Sawada, S. 1963a. Studies on the local races of the Japanese newt, *Triturus pyrrhogaster* Boie. I. Morphological characters. J. Sci. Hiroshima Univ. B-121: 135-165.

Sawada, S. 1963b. Studies on the local races of

the Japanese newt, *Triturus pyrrhogaster* Boie. II. Sexual isolation mechanisms. J. Sci. Hiroshima Univ. B-1 21: 167-180.
矢部　隆・林　文男. 1998. 愛知県渥美半島のイシガメに寄生するカメキララマダニ. 日本ダニ学会誌, 7 (1) : 47-50.

資料 1

調査地の自然の豊かさを示す参考資料として，調査期間中に見つけた爬虫両棲類以外の動物を列挙する。動物群ごとに体系的な調査をすれば，さらに多くの種が記録されることは間違いない。なお，鳥類は 24 種が確認されており，大羽がその報告を執筆中である。また，水生昆虫などの底生動物も採集しており，標本を分析中である。魚類については岐阜経済大学助教授の森誠一博士に，ホタルについては愛知県東海市の高津英夫氏に御教示いただいた。記して感謝の意を表する。

ノウサギ *Lepus brachyurus*（96.6.9 糞採集，97.7.29 目撃）
ホンドイタチ *Mustela sibirica itatsi*（98.10.12，路上死体を目撃）
ウナギ類（96.7.27，カメ捕獲用のわなに入る）
オイカワ *Zacco platypus*（96.3.29，97.10.8，97.11.12，98.8.4，98.10.10，98.10.12）標本あり
カマツカ *Pseudogobio esocinus*（97.11.12，98.8.4）標本あり
コイ *Cyprinus carpio*（96.9.1，96.11.18）目撃
ギンブナ *Carassius gibelio langsdorfi*（97.6.29，一尾は赤化）標本あり
カブトムシ *Allomyrina dichotomus*（97.8.17）標本あり
クロマドボタル *Pyrocoelia fumosa*（陸生の幼虫，96.10.2 夜）標本あり（幼虫）
ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus*（97.11.5）標本あり
ハルゼミ *Terpnosia vacua*（97.4.29）
サワガニ *Potamon dehaani*（96.3.24，97.6.29，97.8.11）標本あり
モクズガニ *Eriochir japonicus*（96.3.29，96.4.7，96.9.1，96.10.2，96.10.27，96.11.25，97.6.29，97.9.5，97.10.8，97.11.12，98.7.31，98.8.4，98.10.10）標本あり

その他，キツネ，タヌキが国道 42 号線上でときどき轢死するとの聞き込み情報を得ている。

資料 2

1995 年 7 月 27 日

愛知県知事　鈴木礼治様

渥美町の農免農道に関する要望書

渥美自然の会代表　大羽康利

愛知県渥美町の国定公園特別地域内を通過する農免農道に，95 年度より予算措置がなされ，計画が本決まりとなりました。これは私たちの中止要望に反する大変残念なことです。私たちは今からでも計画の撤回されることを願っておりますが，今後詳細計画を立てるに当たって，自然環境調査に基づいた動植物保護のために留意していただきたい点を以下にまとめました。必要な予算措置を講じれば何れも実現可能なものばかりと考えております。是非とも実現下さるようお願いを致します。

記

1　自然度 9（自然林－極相林またはそれに近い群落構成を示す天然林）の森林はすべて現状のまま保全して下さい。

2　トンネルの長さはこれまでの約束に基づき，より長くして下さい。私たちの検討したところでは1000 m程度は必要です。

3　道路部分にはタヌキ，キツネ，リス，テンなどのけもの道を分断することのないよう陸橋方式を採用下さい。陸橋にできないところには，ほ乳類他の動物移動用通路を複数箇所設けて下さい。

4　小鳥類の渡りや夜行性動物への影響を少なくするため，道路に街路灯は設置せず，車の明かりも漏れないよう遮光して下さい。

5　道路周辺ではオオタカ，ハチクマ，サシバ，フクロウなどが繁殖しています。これら猛禽類の繁殖に影響の無いよう配慮して下さい。古巣などが発見された場合は営巣木より道路までを100 m以上離して下さい。

6　土田側のダム池にはイシガメが生息しています。その産卵地と，池から産卵地までカメの移動する「亀道」を調べた上で，それらを保全して下さい。

（4，5は，これらを怠りますと自動車事故の原因となります。）

7　椛側のダム池にはカワセミやカイツブリが生息し，ミサゴが魚を捕らえたりもしています。この池周辺を現状のまま保全して下さい。

8　ムカシヤンマの生息する湿地（水田跡地）周辺を保全して下さい。

9　モウセンゴケ，サワギキョウの自生する湿地（水田跡地）周辺を保全して下さい。

10　土田側の鮎川にはアユが遡上してきます。道路完成後もアユが遡上できるような配慮をお願いします。